明倫短期大学学会報告

での期間に本学附属歯科診療所に６週間配属された実習生53名で，１ローテーション終了後に実習生本人が記載する自己評価表をもとに集計・分析した．

その結果，手用スケーラーおよび超音波スケーラーを使用してのスケーリング技術の向上やシャープニングの徹底など今後，学生教育の見直しが必要と思われる事項が明らかとなった．また，患者さんへのブラッシング指導だけでなく，実習生にも歯周疾患原因の説明等を行う機会を与え，コミュニケーション能力を身につける必要性を強く感じた．この結果を踏まえ，即戦力となる歯科衛生士の教育を目標に，日々の学生教育に役立てていきたい．

古代エジプトにおける「人体」

内田杉彦（歯科技工士学科）

死後の再生・復活を信じていた古代エジプト人は，遺体を来世で用いる肉体とするためにミイラとして保存した．彼らは，現世のみならず来世においても，人体が生命維持の鍵となると考えていたのである．当時，人体がどのように理解されていたかについては，医師の治療マニュアルだった「医術文書」が手がかりとなる．それによると，体内には数多くの「管」（メト）が通っているとされ，空気と飲食物を身体各部に運ぶメトや，排泄物や有害なものを排出するメトのネットワークと，それらを動かす心臓の働きが，生命を維持しているとされていた．心臓はまた，理性や感情，人格が宿るところとされており，それに対して脳の機能は理解されていなかったとみられる．古代エジプト人の「人体」概念は，現代の視点からすれば限界をもつものだったとはいえ，ある程度の合理性を備えており，「生命」維持の仕組みに対して彼らが抱いていた強い関心のあらわれと言えるだろう．

第35回（通算第118回）：2008年9月25日（木）
（座長：五十嵐雅子）

歯科技工士学科における新卒者の就職実態調査

相馬泰栄（歯科技工士学科）

平成18年及び19年の新卒者を対象に就職１年後の現状を調べ，その問題点を把握することで，今後の就職活動の資料にすることを目的に就業実態調査を行った．その結果，18年と19年の新卒者には大きな差がみられなかったが，就職先に対する満足度は50％であった．満足している理由として，職場環境がよい，色々な奨励をやらせてくれる，労働条件が良いなどであった．反面，満足していない理由としては長時間労働を挙げていた．一週間の労働時間は51～60時間が最も多く40％を占めた．70時間以上働いているも約23％と多く，長時間労働を裏付けるものであった．学生時代の教育への要望は臨床に直結する実習を希望するものが多かった．今後の勤務継続の意思については継続するが約43％，できたら辞めたいや今後について分からないが約57％であった．職場に対する満足度や勤務継続の意思は，労働条件や職場環境が大きく影響し，新卒者の歯科技工士には厳しい労働条件（長時間労働，低賃金）が明らかになった．その為，労働条件の改善が強く望まれ，今後も継続して本調査を実施する必要があるとの結論に至った．

保険診療と診療報酬改定

市川伸彦（附属歯科診療所）
小林香菜子（附属歯科診療所）

保険診療において，２年毎の社会保険診療報酬の改定は大きな影響がある．改定では，点数の見直し，包括化や規則等の変更が行われる．最近の改定と日常臨床への影響を考えてみた．

H14年度から本年度までの４回の改定では，改定率は－1.5％～＋0.42％で上下し，訪問診療料の適正評価と対象患者や要件等の明確化，一般と老人診療報酬の統合，多数項目で文書提供が要件化されたことによる事務作業の増加と一部の包括化等，変化してきた．当診療所での件数集計でも，改定内容にほぼ一致した変化がみられ，H20年改定では，医学管理料の他は大きな変化がなかった．

国民皆保険が維持されても，保険適用が狭まる，診療項目の包括化，重点部分への再配分等の仕組み上の様々な変化は十分考えられる．その変化の影響を大きく受けながらも，対応し臨床に携わっていく必要がある．